

パレット

特集!

佐野市男女共同参画推進事業者表彰



昭和電機様

佐野商工会議所様

平成27年11月20日(金)に、第1回佐野市男女共同参画推進事業者「パレット賞」表彰式が佐野市勤労者会館で行われました。仕事と生活の両立支援や男女がともに働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる事業者等を公募し、今年度は昭和電機様と佐野商工会議所様に表彰状が贈られました。

佐野市男女共同参画講演会開催! 「格差・貧困問題と男女共同参画」

2月6日(土)、法政大学教授湯浅誠さんをお迎えして、第11回男女共同参画講演会が市文化会館で開催されました。講演の中で、自己の経験から貧困問題と男女共同参画の問題はつながっていることなどお話しくださり、「講演会が終わってからの本番です」と、問題を「我がこと化」して多くの人をどれだけ巻き込んでいくか、働きかけることの重要性を訴えました。また当日は講演に先立ち、小学生の標語・作文の表彰式が行われました。



別紙掲載!
男女共同参画に関する
標語・作文表彰式

目次

- 2ページ……特集「平成27年度 男女共同参画推進事業者表彰「パレット賞」受賞事業者に聴く！」
- 3ページ……シリーズ!輝く女性、栃木県次世代人材づくり事業参加者報告
とちぎ女性政策塾参加者報告
- 4ページ……男女共同参画情報、佐野市男女共同参画都市宣言、編集後記

平成27年度 男女共同参画推進事業者表彰 「パレット賞」受賞事業者に聴く!

《評価された点》

- ・女性社員の積極的な外部研修参加によりレベルアップを図っている。また職場改善サークルで女性もリーダーとして活躍している。
- ・「年間休日検討会議」を開催し、休暇が取りやすいよう工夫している。
- ・喫煙コーナーを設け、分煙を完全に実施している。
- ・資格取得のための補助制度がある。



寺岡総務部長

総務部の熊倉さん

昭和電機株式会社
(植野町)
代表取締役 三好 仁 様

1. 受賞をどのように感じましたか?

とても光栄。これからも責任を持たないといけないと感じている。

2. 社内で男女共同参画の推進に
取り組んでいることについて

特に男女共同参画を意識して取り組んでいることはなく、教育には力を入れているということ。職場改善サークルのリーダーをまかされてプレッシャーを感じることはあるが、楽しくやっている。

3. 特色ある取組とと思う内容は?

社員教育に力を入れており、資格取得や社外研修等の費用について会社が負担してくれているため、やる気につながると思う。

4. 会社が男女共同参画についての
環境整備を行うことについて

は?
教育や職場改善に係る提案に力をいれており、従業員のやる気につながると思う。



《評価された点》

- ・職員を男女同数採用している。
- ・育児休業を取得する職員に合わせて規則を見直し、環境を整備した。
- ・時間外勤務に配慮し、男女とも働きやすい職場を目指している。
- ・事務所の建物全体を禁煙としている。
- ・仕事に必要な資格を取得すると、給料に反映される制度がある。



業務課の阿部さん

飯塚業務課長

佐野商工会議所
(大和町)
会頭 島田 嘉内 様

1. 受賞をどのように感じましたか?

うれしく思います。また今後とも男女が働きやすい職場をめざして気持ちを引き締めていきたい。

2. 社内で男女共同参画の推進に
取り組んでいることについて

育児休業を取得することに不安があったが、制度の見直しや、上司による相談体制、また復帰後の配置転換がないという方針により、安心して復帰することが出来た。

3. 特色ある取組とと思う内容は?

仕事に必要な資格を取得すると給料に反映される点。仕事にやりがいを感じることが出来る。また事業所としても必要な資格を取得してもらえれば、経営指導員として顧客を満足させる対応ができる従業員が増えることになるので有効。

4. 会社が男女共同参画についての
環境整備を行うことについて

は?
休暇や相談しやすい職場雰囲気など働きやすい職場にしてもらえてありがたい。

シリーズ!

輝く女性

佐野税務署
署長 前川 一美 さん

～感謝しながら 甘えられるときは甘えよう～

・埼玉県さいたま市在住で、現在夫と2人暮らし、
電車で佐野市まで2時間かけて通勤している



けています。

Q. 国が進める女性の活躍についてどのように思いますか？

すごいことだと思えます。それぞれの感性を生かして女性が活躍してほしいです。

Q. 圧倒的に男性が多い職場ですが、女性としての苦労は？

特に女性で苦労したということはありませんでした。相談もすることができましたし、理想とする先輩もいました。

Q. 最後に働く女性へ一言。

子育てなど大変な時もあります。必要なときは周りの人に甘えて頑張ってください。ただし感謝を忘れてはいけません。

わたしたちの税金に関する仕事をしている国税庁のなかで、栃木県を管轄している関東信越国税局。約六千人が働いており、そのうち女性は19%。昨年からは佐野税務署長となった前川さんにお話しをお聞きしました。

Q. 税務署長になる前はどんな仕事をしていたか？

人事関係の仕事や税の徴収事務、所得税の調査事務、税の広報事務、監察官など幅広い分野の仕事を経験することができました。また働いていた場所も新潟や群馬、栃木など広範囲にわたります。

Q. 転勤も多いようですが、家庭と仕事の両立は？

子育て期に子どもを保育園に入園させるのは苦労しました。また遠方の勤務だと帰宅時間が遅いため、家事ができないことも多いですが、休日に重点的に家事をこなしたり、家族の協力や理解に恵まれ仕事を続

地元団体の講演会の講師を依頼されるなど、地域との交流を深め、また外部にはもっと佐野を発信したいと、素敵な笑顔でお話してくださいました。

○とちぎ女性政策塾○

萩原 たみえ

平成27年7月11日～10月31日まで計7回受講しました。受講した16名の仲間は、生涯学習審議委員や木育(※1)を推進している方、政治に関心を持つ子育て世代の方、とさまざまでした。

プログラムは栃木県の男女共同参画の現状やリーダーの資質についての講義、ワールドカフェ方式(※2)のワークショップやプレゼンテーションの手法、統計学など幅広く、初めて学ぶ項目もあり、具体的な施策のために欠かせない内容ばかりでした。なかでも、「女性の政策決定過程への参画の重要性」の講義では、栃木市議会議員で女性の初代議長になられた大川秀子議員から生の声を聴くことができ、大変勇気をいただきました。課題では審議会等の傍聴、レポート、スピーチがあり、私は佐野市議会を選び、議会を通じて佐野市の課題や自身の進むべき方向を考えさせられました。最終日には模擬審議会を行い、議長・委員双方の立場で会議の運営について大変参考になりました。修了式の後交流会があり、先輩方の活躍ぶりを目の当たりにしたことで、私も決意を新たにしました。



○栃木県次世代人材づくり事業○

麻生 芳子

～「日本女性会議2015倉敷」に参加して～

10月9日倉敷駅へ到着すると、「歓迎 女性会議2015倉敷」と改札口にピンクの横断幕などが掲げられ、倉敷市の「おもてなし」の心を感じました。経路には誘導係が活動しており、今回の為に集った約700名のボランティアと知り、会議における倉敷市民との協働を感じました。開会式は、市長が名産のシーズ姿で登場し、男女共同参画への歩みなどについて挨拶されました。翌日は、分科会『食育文化の開放、今こそ始めよう「食」の男女共同参画』へ参加し、(株)タニタの元社長・谷田様と、くらしき作陽大学特任教授・山下様の対談が行われました。谷田様は、食の安全教育は未開拓であり食育が大事であると発言され、山下様は、家庭における共食を通じた食育の重要性を説明されました。また、子供の貧困は大人の責任であると断言された事に、私も共感しました。「倉敷流おもてなし」を受け、倉敷の景観とマッチした素敵な日本女性会議でした。



(写真左側が麻生さん)

※1 子どもの頃から木材を利用することで、森林や木に対する関わりを考える豊かな心を育てる活動

※2 会議での討論の手法の1つ。テーマについて各テーブルで討論した後、核となる1人以外は別のテーブルで前の討論のやり取りからさらに議論をすすめる。何回か続け、最後に核となった1人が討論のまとめを発表する方法。

第四次男女共同参画基本計画を策定

(平成27年12月25日閣議決定)

国は第三次基本計画策定後の国内外の男女共同参画に関する状況を考慮し、新たに第四次基本計画を決定しました。

(目指すべき社会)

- ①個性と能力を十分に発揮できる、多様性に富んだ豊かで活力ある社会
- ②男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会
- ③男性中心型労働慣行等の变革等を通じ、仕事と生活の調和が図られる社会
- ④国際的な評価が得られる社会

(強調している視点)

- ①男性中心型労働慣行等の变革
- ②あらゆる分野への女性参画拡大に向けた取組
- ③困難な状況におかれている女性の環境整備
- ④男女共同参画の視点からの防災・復興対策
- ⑤女性に対する暴力の根絶
- ⑥国際的な規範・基準の尊重
- ⑦地域における推進体制の強化

また、男性の育児休業取得率を平成32年までに13%を目指すなど数値目標をにかけています。詳しくは内閣府男女共同参画局のホームページ (<http://www.gender.go.jp/>) をご覧ください。

佐野市地域指導者研修会

新しい国の基本計画の内容についてポイントを読み解き、そこから見える地域の課題をグループで話し合います。

日時：平成28年3月19日(土)

午後1時～午後4時

講師：井原陽子さん(栃木県男女共同参画地域推進員)

会場：パレットプラザさの

問合せ：人権・男女共同参画課(27) 2354

申込：3月11日(金)までに人権・男女共同参画課

託児有り(満6ヶ月以上就学前まで・無料)

関心のある方のご参加お待ちしております。

佐野市男女共同参画都市宣言

佐野市が男女共同参画について推進する都市であることを発信するため、「佐野市男女共同参画都市宣言」の策定を行っています。素案がまとまりましたので、パブリックコメントを実施し広く皆さんの意見を募集します。

○募集期間：平成28年3月1日(火)～3月31日(木)

○閲覧場所：人権・男女共同参画課、庁舎2階市政情報コーナー、田沼・葛生行政センター(市のホームページからも閲覧できます)

○閲覧時間：午前8時30分～午後5時15分(土日・祝日は除く)

○意見提出：閲覧場所に備え付けの意見記入用紙に必要事項を記入のうえ、直接・郵送・ファックス、または電子メールで人権・男女共同参画課まで提出ください

※電話による意見は受付しません

○問合せ：人権・男女共同参画課
詳しくは市ホームページ

(<http://www.city.sano.lg.jp/>)

をご覧ください。みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。



【編集後記】

桜の開花が待ち遠しい季節となりました。佐野市では昨年パレット賞が、国では4月から女性活躍推進法が動き始めるなど男女共同参画社会のつぼみが開花し始めました。これからもその枝にたくさんのお花を付け、男性も女性も尊敬し合える男女共同参画社会になるよう期待したいです。



【編集委員】

今井美砂子、阿部 陽子、岩永 秀彦
金子 庸三、立川 久恵、中里 聖子



パレット 第13号【2016年3月発行】
編集発行 佐野市市民生活部人権・男女共同参画課
〒327-0003 栃木県佐野市大橋町2183
電話 0283 (27) 2354 FAX 0283 (21) 2774
E-mail: jinkendanjo@city.sano.lg.jp

男女共同参画に関する身近な情報や、市内で活躍する女性の情報をお寄せください。また情報紙「パレット」についてのご意見、ご感想をお待ちしております。

第11回佐野市男女共同参画 に関する標語・作文表彰式

平成28年2月6日(土)第11回佐野市男女共同参画に関する標語・作文表彰式が佐野市文化会館で行われました。次代を担う子どもたちに男女共同参画について理解を深めてもらうため、市内の小・学5・6年生を対象に男女共同参画に関する標語・作文の募集を行い、最優秀賞・優秀賞作品の受賞者に表彰状と記念品が贈られました。

〇標語の部	〇作文の部
最優秀賞 1作品	1作品
優秀賞 7作品	7作品
入選 10作品	7作品
応募作品 74作品	15作品



第11回男女共同参画に関する標語・作文最優秀賞・優秀賞を受賞されたみなさん

標語の部・最優秀賞

その仕事

僕も私もできますよ

男女協力 明るい未来

飛駒小六年 源田 琉捺さん



作文の部・最優秀賞

「お互いの良さを生かして」

多田小六年 高橋 凌平さん

「これは来てきたよ。」
と、明るい母の声。ぼくは妹といしよに、できあがった料理をテーブルに運んだ。今日のメニューは、ご飯、みそ汁、そしてぼくの大好きなハンバーグと、オニオンサラダだ。「いただきます。」
両親と、妹と、弟と食卓を囲んで食べ始めた。
ぼくはさっそく、ハンバーグを一口食べた。

「おいしいねえ。」
と言うと、弟も、
「ぼくも、これ大好き。おいしいねえ。」

と言った。母がにこっと笑った。すると妹が、

「この前、お父さんが作ってくれたカレーもおいしかったよね。」

と言った。ぼくたちがうなずくと父もうれしそうに、

「そうかそうか。また作ってみよう。」

と言った。弟が、
「やったあ。」

とガッツポーズをしたのでみんなで笑った。

笑いながら、ふと、ぼくは気付いた。この食事は父が働いて得た給料で材料を買って、それを母が調理してぼくのもとへやってくるのだということ。この食事をするために父は働いていて、母はこん立てを考えて食べやすいようにしてくれる。やっていることはお互いに違つけれど、二人がいてこそ、そして二人が協力し合っているからこそできるものなのだ。父も、ふだんは家の仕事は母に任せているけれど、仕事の休みの時には料理を作ってくれたりお風呂そうじをしてくれたりする。「男だから」「女だから」というわけではなく、お互いの得意なことを分かっているから「ぼくは、これをやるよ」「私は、これをやるよ」と仕事の分担をして、ぼくたち家族が生活しやすいようにしてくれて

いるんだと思う。ぼくも妹と、お風呂そうじと夕食の準備を交代で行っている。

「男だから」「女だから」という言葉は、「男だから」「女だから」ではなくてはいけなやかか、「男だから」「女だから」でできないとかいうのではなく、「男だからこそ」「女だからこそ」でできるという意味で使うべきだと思つた。できないことを見つければよりできることを探すことが、これからの社会につながる第一歩だと思つた。男女の差別なんていらぬ。男女の違いはあるけれど、社会をつくるためには男女の両方が必要だから。ぼくの両親が、このことについて深く考えているかどうかは分からないが、きっと心のどこかで思っているだろう。お互いかけがえないパートナーだと。

ぼくたちが大人になった時に、家庭や職場などで、男女の差別がなくお互いの良さを生かしながら、協力して働いたり、生活できたりする世の中になっていたらいいなあと思つた。男女の違いや良さを理解し合えるように努力していきたい。



受賞された皆さん、おめでとうございます。